

National Institute of Special Needs Education

NISE

## NISE 事業説明 交流及び共同学習について

NISEの研究活動及び研修事業から

### 「交流及び共同学習の充実に関する研究」 「交流及び共同学習推進指導者研究協議会」

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

第44回全国特別支援教育振興協議会  
令和4年12月2日 / 南大塚ホール

 独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所

National Institute of Special Needs Education

NISE

令和2年度地域実践研究

### 「交流及び共同学習の充実に関する研究」

- 研究の背景
- 研究の枠組み
- 文献研究(現状及び取り組むべき課題)
- 保護者へのインタビュー調査  
(交流及び共同学習の充実に向けた視点)
- 居住地校交流の充実(静岡県の実践)
- 中学校における交流及び共同学習の充実  
(横須賀市の実践)
- まとめと今後の課題

2 

National Institute of Special Needs Education

## 研究の背景

- 交流及び共同学習は、インクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備に位置付けられており、重要な教育活動である。
- 先行研究(交流及び共同学習の推進に関する研究(特総研, 2018), 等)によって、交流及び共同学習を推進していくための手立てが提供されてきているが、実践の質の充実、保護者との連携等、課題も多く残されており、インクルーシブ教育システムの推進に向け、交流及び共同学習に係る研究及び実践の蓄積は不可欠である。

3 

National Institute of Special Needs Education

## 研究の背景

- 本研究では、これまでの交流及び共同学習に関する施策、研究、論説、実践、各種報告等を概観するとともに、課題とされている事項として、障害のある児童生徒の保護者の意識や思いの把握、居住地校交流の充実、中学校における校内(特別支援学級と通常の学級)の取組の充実を取り上げ、保護者や担当教員等へのインタビュー調査等を通して、交流及び共同学習の充実に向けた視点、今後取り組むべき視点を検討・整理・提供することを目的とする。

4 

National Institute of Special Needs Education

## 研究の枠組み

- 以下の取組から、考察・検討を進める。
  - ①交流及び共同学習に関する文献研究  
(施策、研究、実践の概観)
  - ②交流及び共同学習に関する障害のある児童生徒の保護者の思い等に焦点を当てた調査研究
  - ③指定研究協力地域の課題に関する調査研究等
    - ・居住地校交流の充実(静岡県)
    - ・中学校における取組の充実(横須賀市)

5 

National Institute of Special Needs Education

## 文献研究

**【概観した文献・資料】**

- 中央教育審議会の答申・報告
- 文部科学省・文部省の刊行物、ホームページ
  - ・精神薄弱特殊学級教育課程編成の手引
  - ・学習指導要領、学習指導要領解説、改訂のポイント
  - ・交流教育の意義と実際、交流及び共同学習ガイド
  - ・障害のある児童生徒との交流及び共同学習等実施状況調査結果
  - ・新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告
- 国立特別支援教育総合研究所研究紀要、研究成果報告書
- 学術雑誌(特殊教育学研究、等)
- 関係雑誌(季刊特別支援教育、実践障害児教育、等)
- 大学紀要
- 書籍

※詳細は研究成果報告書をご覧ください  
 NISE(特総研)ホームページ <https://www.nise.go.jp/nc/> →  
 →報告書・資料 →研究成果報告書

6 

National Institute of Special Needs Education

## 文献研究

**【見えてきたこと(取り組むべき課題)】**

- 実践の蓄積
  - ・校内における実践
  - ・居住地校交流
  - ・様々な障害種や学年に係る実践
- 児童生徒や保護者の視点を踏まえた実践の検討
- 実践の質・成果や評価に関する検討
- 通常の学級で学ぶ、多様な教育的ニーズを有する児童生徒も含め、全ての児童生徒にとっての学びの充実の実現を念頭に置いた実践

7 

National Institute of Special Needs Education

## 保護者へのインタビュー調査

**【目的】**

- 交流及び共同学習の当事者である、障害のある児童生徒の保護者に対してインタビューを行うことによって、交流及び共同学習に関する意識を収集し、活動のより一層の充実や、児童生徒が交流及び共同学習により主体的に取り組むための知見、質の高い活動に向けた保護者との連携の視点を考察・整理する。

**【実施時期】**

- 令和2年10月～11月

8 

National Institute of Special Needs Education

保護者へのインタビュー調査

**【対象者の選定方針】**

- 障害のある児童生徒の保護者を、可能な限り国内の幅広い地域から選定する。交流及び共同学習の形態についても偏りがないようにする。
- 新型コロナウイルス感染症拡大等防止のため、直接訪問等による調査は行わず、インターネットを介したオンライン通話によるインタビュー調査を基本とする。そのため、対象者は、一般的なプラットフォームによるオンライン通話が可能な方とする。

9 

National Institute of Special Needs Education

保護者へのインタビュー調査

**【対象者】**

- 小・中学校及び特別支援学校に在籍している、もしくは過去に在籍していた障害のある児童生徒の保護者13名。
- 聞き取ったエピソードに関わる当時の児童生徒の在籍は、小学校特別支援学級、特別支援学校小学部及び中学部、学年は小1～中3。
- 居住地は、関東地方、中部地方、中国地方、九州地方、各3～4名。
- 児童生徒の障害種は、視覚障害、知的障害、肢体不自由、情緒障害、自閉スペクトラム症。

10 

National Institute of Special Needs Education

## 保護者へのインタビュー調査

### 【調査内容】

- 交流及び共同学習を行った際に保護者が感じたことについて(よかったと感じたこと、課題と感じたこと、等)
- 交流及び共同学習を行う上で、事前に学校側と行った打合せの内容について
- 今後どのように交流及び共同学習を行ってほしいか(現在各学校に在籍している児童生徒の保護者)
- 在学中(在籍中)に行った交流及び共同学習が、現在の生活にどのような影響を与えていると感じるかについて(既に卒業したもしくは特別支援学級や特別支援学校に在籍していない児童生徒の保護者)

11 

National Institute of Special Needs Education

## 保護者へのインタビュー調査

### 【多くの保護者に意識されていたこと】

- 友だちとの交流を拡げ、深めること
- 自己について認識していくこと
- できることを増やすこと(学習面、行動面、他者との関係・コミュニケーション等)
- 友だちと同じ場で過ごし、意識する中でこそ期待できる育ちがあること
- 周囲の児童生徒から学ぶ効果の期待

### 【保護者の意識から考えられる課題、必要な視点】

- 教員同士、及び教員と保護者間における、児童生徒の実態・特性、活動内容、ねらい、願い等の共有、共通理解
- 周囲の児童生徒や、障害のある児童生徒のきょうだいの思いの把握

12 

National Institute of Special Needs Education

## 居住地校交流の充実

### ・ ・ 静岡県 の 取組

**【背景】**

- ・ 静岡県においては、交流及び共同学習について、特別支援学校に通う生徒が居住する地域の小・中学校に「副次的な籍」をおくこととしており、「交流籍」と呼んでいる。
- ・ 静岡県では、この交流籍を活用した取組(居住地校交流)を推進しており、ガイドブックも作成している。
- ・ 静岡県内の特別支援教育コーディネーターへの調査において、「居住地校交流の具体的実践」、「交流籍校への理解啓発」、「学校間の連携方法」等の課題が挙げられた。

**【目的】**

- ・ 交流籍を活用した居住地校交流の充実に向けた方策の検討を進めることを目的に、静岡県内の特別支援学校へのインタビュー調査を行った。

13 

National Institute of Special Needs Education

## 居住地校交流の充実

### ・ ・ 静岡県 の 取組

**【方法】**

- ・ オンラインによるインタビュー調査

**【対象】**

- ・ 静岡県内の特別支援学校4校(交流籍を活用した交流及び共同学習に関する県の研究指定校、県のモデル地域として交流籍を先行導入した特別支援学校等、視覚1校、知的1校、知・肢併置2校)において、交流籍を活用した交流及び共同学習の推進を担っている教員

**【インタビューの観点】**

- ・ 居住地校交流の実際についての工夫と課題
- ・ 学校の体制づくりの工夫と課題
- ・ 居住地校交流の普及についての工夫と課題
- ・ 居住地校交流の意義

14 

National Institute of Special Needs Education

NISE

## 居住地校交流の充実 ・ ・ 静岡県の取組

**【居住地校交流の充実に向けた視点】**

- ・ 事前の打合せ、事前学習等の実施
- ・ 双方の児童生徒の目標や学習内容の検討
- ・ 必要な情報の共通理解(打合せシートの活用等)
- ・ 小・中学校で学ぶ児童生徒に対する、障害、配慮、共に学ぶ方法等の丁寧な説明
- ・ 小・中学校の教職員への理解啓発(ポスター掲示等)
- ・ 居住地校交流の計画・実施の手順の明確化、各部署等の役割の明確化等、体制づくり
- ・ 特別支援学校内における教員間での交流籍に関する学習の積み重ね
- ・ 居住地校交流に関する保護者の願いや希望の把握(アンケート等)
- ・ 市町村教育委員会指導主事、小・中学校の管理職や特別支援教育コーディネーターへの啓発(校長会やコーディネーター研修会等の活用)
- ・ 児童生徒の居住する地域の特色、強み、良さの把握と、その地域での暮らしを意識した実践

15 

National Institute of Special Needs Education

NISE

## 中学校における交流及び共同学習の充実 ・ ・ 横須賀市の取組

**【背景】**

・横須賀市では、多様な教育的ニーズのある子どもの学びを保障する学校づくりの推進に向け、校長のリーダーシップのもと、特別支援教育コーディネーターを中心に、組織的な対応が進められているが、交流及び共同学習の充実については十分な対応がなされていない現状がある。

・特に中学での交流及び共同学習について課題点を明確にし、交流及び共同学習の充実を図る必要性がある。

**【目的】**

・横須賀市内23校の中学校特別支援学級における交流及び共同学習の実態を探り、現状と課題を明らかにし、交流及び共同学習の充実に向けた具体的方策を検討する。

16 

National Institute of Special Needs Education

## 中学校における交流及び共同学習の充実 ・ ・ 横須賀市の取組

**【方法】**

- ・横須賀市中学校23校の特別支援学級担任を対象とした質問紙調査
- ・校長、特別支援学級担任への聞き取り調査(質問紙調査から3校を抽出)

**【質問紙調査の内容】**

- ・交流及び共同学習における成果
- ・交流及び共同学習における特別支援学級の生徒へのサポート体制
- ・校内で定期的に行われている支援会議のメンバー・内容
- ・特別支援学級の実態、授業の体制、校内の理解等
- ・交流及び共同学習を進める工夫
- ・交流及び共同学習における生徒の課題
- ・交流及び共同学習における教員や学校体制の課題

17 

National Institute of Special Needs Education

## 中学校における交流及び共同学習の充実 ・ ・ 横須賀市の取組

**【中学校における校内の取組の推進・充実に向けた視点】**

- ・ 特別支援学級と通常の学級間の連携、調整
- ・ 校長のリーダーシップ
- ・ 特別支援学級の生徒に関する校内職員の把握・理解
- ・ 個々の生徒の特徴等を職員に伝達する機会の設定・工夫
- ・ 通常の学級の生徒に対する、特別支援学級の生徒へのサポート方法等を伝える機会の設定・工夫
- ・ 通常の学級の生徒に対して、適切なタイミングで特別支援学級の生徒への関わりをサポートできる体制
- ・ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用
- ・ 特別支援学級の生徒への校内のサポート体制の充実
- ・ 支援会議及び特別支援教育コーディネーターの機能の充実

18 

National Institute of Special Needs Education

NISE

## まとめと今後の課題

**【実践上の視点】**

- 交流及び共同学習において、「児童生徒が今持っている力を発揮できる」、「自分が役に立っている実感がもてる」実践の展開

**【今後の展開に向けての課題】**

- 児童生徒やその保護者の意識を対象とした研究の蓄積
- 障害のある児童生徒及びその保護者、通常の学級で学ぶ児童生徒及びその保護者の意識、思いを把握したうえでの実践の検討
- 上記の把握、共通理解をどのように行っていくかの工夫
- 取組の成果に関する、障害のある児童生徒、障害のない児童生徒、双方の観点からの研究の蓄積
- 対象、方法、内容等、多様な実践の蓄積
- 実践の質及び評価に関する研究の蓄積
- 「交流籍」のような、地域の学校に副次的な籍を置く取組の一層の展開
- ICTを活用した交流及び共同学習についての実践・研究
- 中学校における実践、校内における実践の蓄積
- 障害のある児童生徒(多様な教育的ニーズのある児童生徒)が通常の学級で学ぶことを支えるための研究の一層の展開

19 

National Institute of Special Needs Education

NISE

令和2年度地域実践研究  
交流及び共同学習の充実に関する研究

本研究の研究成果報告書は、  
特総研のホームページでご覧いただけます。

↓

NISE(特総研)ホームページ <https://www.nise.go.jp/nc/> →  
→報告書・資料 →研究成果報告書

20 

National Institute of Special Needs Education

インクルーシブ教育システムの充実に関わる指導者研究協議会  
「交流及び共同学習推進指導者研究協議会」

**【目的】**

- インクルーシブ教育システムの充実に向け、各都道府県において障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒との交流及び共同学習を推進する立場にある教職員による研究協議等を通じ、各地域における交流及び共同学習と障害の理解推進を図る。

**【受講対象・定員】**

- 教育委員会及び特別支援教育センター等の指導主事
- 交流及び共同学習を推進する立場にある幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員
- 定員は70名程度

**【実施時期等】**

- 毎年度1回(11月頃に実施)。令和元年度までは1泊2日間の集合型で実施。令和2年度以降、1日間の日程でオンラインで実施(一部の内容は一定期間オンデマンドで配信)

**【内容】**

- オンデマンドによる研修: 主旨・目的等の説明、NISEの研究紹介
- オンラインによる研修: 文部科学省による行政説明、先進的な取組の紹介(教育委員会、特別支援学校、小・中学校等から)、班別の研究協議

21 NISE

National Institute of Special Needs Education

インクルーシブ教育システムの充実に関わる指導者研究協議会  
「交流及び共同学習推進指導者研究協議会」

**【令和4年度の日程・内容等】**

- ◎オンデマンドによる研修: 11月18日～12月9日(情報提供、研究紹介、等)
- ◎オンラインによる研修: 11月25日(金)
- 行政説明(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)
- 取組紹介
  - 副次的な籍の活用(教育委員会指導主事)
  - 学校間交流(特別支援学校教諭)
  - 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習(小学校教諭)
- 班別研究協議
  - 参加者は事前に取り組や課題についてレポートを準備・提出
  - テーマ別に7人程度の班に分かれて協議(レポートにより事前に班を編成)
  - 各班にNISEの研究職員が参加

テーマ: 交流及び共同学習を推進する上での行政上の課題  
異なる学校間における交流及び共同学習の推進  
特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の推進
- 振り返り／講評(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)

22 NISE

National Institute of Special Needs Education

インクルーシブ教育システムの充実に関わる指導者研究協議会  
**「交流及び共同学習推進指導者研究協議会」**

**【班別協議での主な話題(令和元年度～3年度)】**

- 交流及び共同学習の推進に向けた都道府県と市町村の連携
- 副次的な籍の活用
- 交流及び共同学習の取組における引率
- 高等学校と特別支援学校の交流及び共同学習
- 各教科における交流及び共同学習の取組
- 特別支援学校(特別支援学級)、通常の学級の双方の児童生徒に有意義な実践内容
- 活動中の特別支援学校(特別支援学級)の児童生徒への支援の在り方
- ICTを活用した取組、コロナ禍における取組
- 交流及び共同学習の評価
- 交流及び共同学習の取組を継続させるための工夫
- 事前準備、事前の打ち合わせ
- 交流及び共同学習、特別支援学級等についての、通常の学級の担任等への理解啓発
- 通常の学級の保護者への理解啓発

23 NISE

National Institute of Special Needs Education

交流及び共同学習推進指導者研究協議会  
 の実施要項等は、特総研のホームページで  
 ご覧いただけます。

↓

NISE(特総研)ホームページ <https://www.nise.go.jp/nc/> →  
 →研修・セミナー →交流及び共同学習推進指導者研究協議会

NISE 独立行政法人  
 国立特別支援教育総合研究所